第151回　日商簿記検定試験　３級　第１回模擬問題　－商業簿記－　問題用紙

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第１問（20点）

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

当座預金	現金	普通預金	建物売却益
貸倒損失	支払運賃	受取手形	買掛金
社会保険料預り金	売掛金	建物売却損	支払利息
建物減価償却累計額	償却債権取立益	所得税預り金	前払金
仕入	未収入金	支払手数料	建物
未払金	給料	減価償却費	法定福利費

１．仕入先嵐山商店に注文していた商品 500 個を１個当たり￥360 で購入し、商品が到着した。商品代金のうち４割は以前支払っていた手付金を充当し、残額は月末払いとしている。なお、商品到着時に当店負担の運賃￥5,000 を運送業者に現金で支払った。

２．昨年度に得意先祇園商事が倒産し、その際に受取手形￥500,000 および売掛金￥800,000 の貸倒れ処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い￥250,000 の分配を受け、同額が普通預金口座に入金された。

３．本日給料日を迎えたため、従業員甲に対して所得税の源泉徴収税額￥12,590 および社会保険料￥49,600 を控除した残額￥337,810 を普通預金口座から振り込んだ。

４．銀行で当座預金口座を開設し、￥2,000,000を当店の普通預金口座からの振り替えにより当座預金口座に入金した。また、当座預金口座開設手数料￥10,800を現金で支払った。

５．平成 18 年７月 10 日に完成・引き渡しを受けた建物￥42,000,000（耐用年数 24 年、残存価額をゼロとする定額法により償却）を平成 30 年 12 月 25 日に￥21,000,000 で売却し、売却代金のうち３％の仲介手数料控除後の金額を年度末に受け取ることになっている。なお、決算日は毎年３月末であり、減価償却の記帳方法は間接法を採用している。

第２問（８点）

次の仕入帳と売上帳の記録にもとづいて、乙商品について商品有高帳を作成し締め切りなさい。なお、商品の払出単価の決定は移動平均法により行い、摘要欄は取引の概要を記入する。ただし、仕入戻しがある場合は払出欄に商品を仕入れた時の単価で記入している。

仕　入　帳

平成31年		摘　　要	金　額
1	5	山形商店　掛	
		甲商品　20 個　@￥300	6,000
	9	山崎商店　約手	
		乙商品　30 個　@￥320	9,600
		久留米商店　掛	
	17	乙商品　50 個　@￥350	17,500

売　上　帳

平成31年		摘　　要	金　額
1	13	山川商店　掛	
		乙商品　40 個　@￥450	18,000
	20	**杉塘商店　掛・返品**	
		甲商品　10 個　@￥320	**3,200**
	26	沖新商店　現金	
		乙商品　45 個　@￥500	22,500

禁無断複写・無断転載

第３問（32点）

次の[**12月中の取引**]にもとづいて、試算表の[12月中の取引高]を集計し、[11月30日の合計]と合算して[12月31日の合計]を計算し、試算表を完成させなさい。

[12月中の取引]

３日　枕崎商店より商品￥630,000を仕入れ、代金は月末締めの翌月10日払いによっている。なお、引取運賃￥12,960は現金で支払った。

５日　出雲商店に対する買掛金￥200,000を約束手形を振り出して支払った。

10日　複数の仕入先に対する掛代金の総額￥800,000を当座預金口座より振り込んだ。

〃　従業員から預かっている所得税の源泉徴収額￥36,500を現金で納付した。

12日　具志堅商店に対して販売していた商品￥20,000が品違いのため返品され、掛代金から差し引くこととした。

13日　札幌商店に商品￥1,250,000を売り上げ、代金のうち￥500,000は同店振り出しの約束手形で受け取り、残額は掛けとした。なお、先方負担の発送費￥12,960を現金で支払い、売掛金勘定に含める処理をする。

15日　函館商店に対する売掛金￥300,000を先方からの依頼により、同店振出の約束手形で受け取った。

〃　得意先より掛代金￥1,800,000が当店の当座預金口座に振込まれた。

18日　従業員の営業用携帯電話料金￥38,600をコンビニエンスストアで現金で支払った。

19日　国見商店からの商品仕入れ代金として同店に振り出していた約束手形￥500,000の支払期日が到来し、当座預金口座から引き落とされた旨の連絡を受けた。

20日　店舗の来月分の家賃￥80,000が当座預金口座より引き落とされた。

21日　従業員の出張にあたり、旅費の概算額￥45,000を現金で支払った。

22日　国東商店に商品￥900,000を売り上げ、代金のうち半分は同店振出の小切手で回収し、残額は約束手形を受け取った。

23日　21日に出張した従業員が帰店し、旅費を精算して不足額の￥3,200を現金で決済した。

25日　給料￥500,000につき、所得税の源泉徴収額￥36,800を差し引き、差額を当座預金口座より支給した。

27日　水道光熱費￥45,500が当座預金口座より引き落とされた。

禁無断複写・無断転載

第４問（８点）

中山商店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票の３種類の伝票に記入し、これを１日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。同店の平成 31 年１月 15 日の取引について作成された次の各伝票にもとづいて、仕訳日計表を作成しなさい。

入金伝票	№101
（売　　上）	170,000

入金伝票	№102
（売 掛 金）	60,000

入金伝票	№103
（普通預金）	70,000

出金伝票	№201
（仕　　入）	66,000

出金伝票	№202
（買 掛 金）	150,000

出金伝票	№203
（営 業 費）	35,000

出金伝票	№204
（支払手形）	100,000

振替伝票	№301
（買 掛 金）	7,000
（仕　　入）	7,000

振替伝票	№302
（買 掛 金）	120,000
（支払手形）	120,000

振替伝票	№303
（売 掛 金）	73,000
（売　　上）	73,000

第５問（32点）

次の⑴決算整理前残高試算表および⑵決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は平成 30 年１月１日から同年 12 月 31 日までであり、試算表中の　？　の金額は各自推定すること。

⑴　決算整理前残高試算表

平成 30 年 12 月 31 日

借　方	勘定科目	貸　方
225,800	現金	
1,698,000	普通預金	
860,000	受取手形	
540,000	売掛金	
256,000	繰越商品	
1,500,000	備品	
3,560,000	土地	
	買掛金	1,230,000
	仮受金	120,000
	借入金	1,200,000
	貸倒引当金	53,000
	備品減価償却累計額	656,250
	資本金	？
	売上	18,560,000
	受取地代	234,000
11,552,500	仕入	
2,256,300	給料	
256,300	水道光熱費	
158,500	通信費	
585,000	支払家賃	
？	支払利息	
？		？

⑵　決算整理事項等

１．仮受金勘定で処理している金額は、得意先山上商店からの手付金であることが判明した。

２．備品の減価償却は耐用年数８年、残存価額ゼロ、定額法により償却している。

３．期末商品の未売却売価は￥285,600、原価は￥182,800 である。

４．受取手形および売掛金の期末残高に対して 5.5％の貸倒引当金を差額補充法により設定している。

５．給料の未払額が￥49,600 ある。

６．借入金は平成 28 年 10 月１日に借入期間３年、年利率３％、で借り入れたもので、利息は毎年９月末に支払っている。なお、利息の計算は月割り計算により、支払利息はこれ以外にない。

７．支払家賃のうち￥45,000 は平成 31 年１月分の金額である。

８．受取地代は前期以前より２月、６月および 10 月に向こう４か月分の地代を受け取る契約となっており、期限までに適切な金額を受け取っている。よって、平成 31 年１月分を前受処理する。